

**製品名:** シクロフィリン D ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab09610

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PPID
別名	PPID; CYP40; CYPD; Peptidyl-prolyl cis-trans isomerase D; PPIase D; 40 kDa peptidyl-prolyl cis-trans isomerase; Cyclophilin-40; CYP-40; Cyclophilin-related protein; Rotamase D
遺伝子 ID	5481.0
SwissProt ID	Q08752
免疫原	抗血清はヒト PPID の C 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 321-370

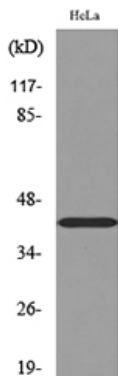
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ペプチジルプロリルシストランスイソメラーゼ (PPlase) ファミリーのメンバーです。PPlase は、オリゴペプチド中のプロリンイミドペプチド結合のシストランス異性化を触媒し、タンパク質のフォールディングを促進します。このタンパク質は PPlase 活性を有することが示されており、他のファミリーメンバーと同様に、免疫抑制剤であるシクロスポリン A に結合することができます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ペプチジルプロリン (オメガ 180) = ペプチジルプロリン (オメガ 0) 。,酵素制御: CYP-18 よりもシクロスポリン A による阻害に対する感受性が低い。 ,機能: PPlase はタンパク質のフォールディングを促進します。 ,機能: PPlase はタンパク質のフォールディングを促進します。 オリゴペプチド中のプロリンイミドペプチド結合のシス-トランス異性化を触媒する。 ,オンライン情報: シクロフィリンエントリー ,類似性: シクロフィリン型 PPlase ファミリーに属する。 ,類似性: シクロフィリン型 PPlase ファミリーに属する。 PPlase D サブファミリー。 ,類似性: 1つの PPlase シクロフィリン型ドメインを含む。 ,類似性: 3つの TPR リピートを含む。 ,サブユニット: ESR1 に結合する。 ,組織特異性: 広く発現している。 ,

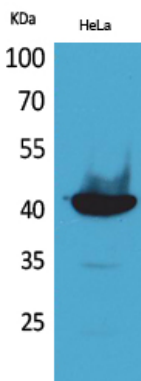
## 研究分野

カルシウム;パーキンソン病;ハンチントン病;

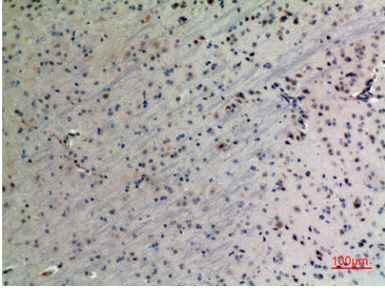
## 画像データ



PPID 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解液のウェスタン ブロット分析。



シクロフィリン D ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット分析。  
二次抗体は 1:20000 に希釈されました。



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された